

著書、学術論文等の名称		単著 共著 の別	発行又は発表 の年月	発行所、発表雑誌 等又は発表学会等 の名称	概要
1 (学術論文) 《筆頭論文》A talking teddy bear for encouraging the elderly to talk with giving response	共著	令和2年 10月 3日	Gerontechnology 19(s) 1-1		<p>論文全体の概要：製作した話し手の音韻情報のみを解析して相槌をうつソーシャルロボットを、一人暮らし高齢者が試用した履歴から、話した内容を分析した結果、単にその日の出来事を話しかけるだけでなく、相槌に応じて反論を述べたり、ロボットに問い合わせたりして、会話を継続しようとする社会性が見られた。</p> <p>(当該論文のページ数：1頁)</p> <p>(当該論文の著者名：石原恵子、石原茂和)</p> <p>(担当部分の概要：研究の主要部分、担当頁特定不可能)</p>
2 (学術論文) A Conversion Interface that Brings out Memories in the Elderly User “IH Sole Konrojaken (Gas Stove-like Operations for Your Induction Cooker)”	共著	平成 30 年 12 月	Proceedings of the Joint 10th International Conference on Soft Computing and Intelligent Systems and 19th International Symposium on Advanced Intelligent Systems in conjunction with Intelligent Systems Workshop 2018		<p>論文全体の概要：着衣着火による高齢者死亡事故の原因となるガスこんろから炎の出ないIHヒーターへの取り替えが進んでいるが、操作体系があまりに異なるため、高齢者が使えないケースも多い。そこで、高齢者が長年慣れ親しんだガスこんろの操作に変換するインターフェイスを作製し、デイケア通所の 70～90 歳男女 11 名に、小鍋の湯を沸かすタスクを課したところ、そのままの IH ヒーターでは援助なしで完了できたのがただ 1 人だったのでに対し、変換インターフェイスつきでは 11 人全員が苦もなく完了することができた。このことから、新しい操作体系の家庭機器であっても、強固な運動記憶を利用する変換インターフェイスを提供することにより、高齢者がより長く自立生活を送れる可能性があることを示した。</p> <p>(当該論文のページ数：5頁)</p> <p>(当該論文の著者名：古堅遙平、高良宗尚、寺田朋哉、石原恵子、元折光一)</p> <p>(担当部分の概要：研究全体の統括、担当頁特定不可能)</p>
3 (学術論文) 《 筆 頭 論 文 》 Kansei Ergonomic Study of Body Brush Development	共著	平成 29 年 7 月	WonJoon Chung, Cliff Sungsoo Shin (Eds.) Advances in Affective and Pleasurable Design, Proceedings of the AHFE 2017 International Conference on Affective and Pleasurable Design, July 17-21, 2017, The Westin Bonaventure Hotel, Los Angeles, CA, USA pp. 318-324.		<p>論文全体の概要：ボディブラシの試作品と従来品について、身体的負荷を筋電図計測で、感性評価を評価実験でそれぞれ評価し、結果に基づいた試作品を中高年者による同様の評価実験を経て、身体的負荷が小さく感性評価の高いモデルを提案し、(株)アイセンからの製品化に結びつけた。</p> <p>(当該論文のページ数：7頁)</p> <p>(当該論文の著者名：石原恵子、森永浩介、坊岡正之、石原茂和、片山彰)</p> <p>(担当部分の概要：研究の主要部分、担当頁特定不可能)</p>